

# 8.30 津田沼 反動的な成功が成る！



79.8.31  
No. 212

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
〔鉄電二三五八・九・公衆電話(22)七二〇七〕

## 反動集団の敵対を粉碎し裏切り者を断固糾弾！

「8・30組織破壊攻撃粉碎・反動密通裏切り分子糾弾、津田沼拠点総決起集会」は八月三〇日一三時、津田沼電車区講習室で津田沼支部をはじめ、全支部からの動員者一五〇名が結集して開催され、圧倒的高揚をかちとった。また、一五時五五分に出動する裏切り分子・佐藤和美の出動時刻に併せて二八〇名の部隊で裏切り分子防衛と称して、動労千葉破壊策動を画策してきた反動集団は、結集した動労千葉組合員の怒りをさらに燃え立たせ、裏切り分子・佐藤と斉藤吉司に対して激しい糾弾の声が集まった。

広く理解された動労千葉の大義！

― 関川委員長あいさつ ―

各支部の動員者の結集は一〇時三〇分頃より始まり、講習室は一一時三〇分頃にはいっぱいとなった。

執行部からの状況報告のあと、全員で昼食をとり、青年部は反動分子からの集会破壊・防害策動に対する防衛体制に入り、親組合は待機の体制に入った。

一三時、集会は開始され、まず、関川委員長から動労千葉闘争委員会を代表して大要次のような決意をこめたあいさつが行われた。

「われわれは、労働組合にあるまじき集団と自らの力で闘い抜いてきた。県労連はもちろん、総評、社会党に結集する多くの人々は動労千葉の大義を理解してきている。そのことは、総評大会や動労全国大会の中ではっきりと示されている。第三五回全国大会に見られるように動労内部における決起も開始された。その中で、反動分子に手を差しのべ、4・17をはじめとする暴力を容認する裏切り者を許すことができないのは当然である。今後も裏切り者を糾弾し、組織体制をさらに強化してゆこう」

動労千葉がかちとった偉大な成果！

― 水野組織部長基調報告 ―

集会は続いて水野組織部長からの大要次のような基調報告を受けていった。「われわれの闘いは、日本労働運動の中でかつてない偉大な成果をかちとった。動労千葉が九〇%を超える組合員の獲得をかちとり、しかも、本部の側につくという者が、全国大会でデッチ上げた七名というようなことは労働運動を知る多くの人々に驚異の目でみつけられている。とめどない日本労働運動の右傾化の中で苦闘する多くの

戦闘的労働者が動労千葉の闘いに注目している。

このわれわれの闘いの勝利は、第一に、動労千葉の路線的正義性、第二に、正しい路線のもとに闘い抜いて鍛えられた動労千葉組合員の戦闘性に裏付けられた団結によって支えられている。われわれは、三月三〇日、決然と立って日々団結を強化してきた。一方、反動分子の側はどうか。第三五回大会の「片肺執行部」の惨状を見れば明白である。いよいよ窮地に追い込まれた反動分子達は、なけなしのスパイ分子まで狩り出して動労千葉の戦闘性の基盤となっていた津田沼支部の団結を破壊する策動に出た。われわれが、本集会をもって裏切り者を糾弾してゆくことの意義は明確である。さらに団結を守り、動労千葉全体で津田沼、新小岩を守り、七名の裏切り者を断固糾弾し、動労全国の良心的・戦闘的組合員と連帯し、動労を改革し、反合・三里塚・ジェット闘争を勝利し、右傾化する日本労働運動の戦闘的再生をかちとってゆこう」

なすすべもなく消耗！

― 反動集団と裏切り分子 ―

集会は続いて、集中して反動分子からの攻撃を受けている津田沼、新小岩両支部からの特別報告、各支部と青年部からの決意表明を受けて終わった。集会の終わった直後、新小岩、幕張、千葉転、成田の各支部へ押しかけて、成田では組合員に暴力をもって組織破壊策動を行っていた反動集団が裏切り分子「防衛」のために津田沼支部に押しかけた。動労千葉の全動員者は激しい怒りをもって、反動集団に守られて「出動」してきた裏切り分子佐藤和美と斉藤吉司を糾弾した。全動員者は反動集団と裏切り分子がなすすべもなく消耗し切って引きあげるのに、激しい糾弾の声を浴びせ、一八時三〇分、全行動を終了した。今後も、さらに裏切り者糾弾、組織強化をかちとってゆこう。